

# 教育・介入のための教材

— 飲酒問題の重症度に応じた教育・介入用教材 —



## AUDIT10点台の方へ注意！

あなたがもし現在のままの飲酒を続けるなら、今後お酒のためにあなた自身の健康だけでなく、家庭や身近な人間関係の中でお酒による問題がみられる可能性が高いと思われます。ぜひご自分のためにも、大切なご家族のためにもこれまでのような飲酒は控えて下さい。健康のためには、1日2ドリンク(日本酒1合弱かビール中瓶1本)までの飲酒を目安にして下さい。ここで、「お酒による健康被害」について学んでみましょう。

## AUDIT20点以上の方へ警告！

あなたの飲酒は、アルコール依存症あるいはその前段階にあります。おそらく、現在でもお酒のためにあなたの健康が損なわれているだけでなく、家庭生活や身近な人間関係の中でお酒による問題が生じていると思われます。今後の飲酒のあり方についてぜひ一度専門医にご相談下さい。場合によっては、断酒が必要となります。あなたの健康を守るため、まずここで「大量飲酒による健康被害」について学んで下さい。

# 教育・介入のための教材

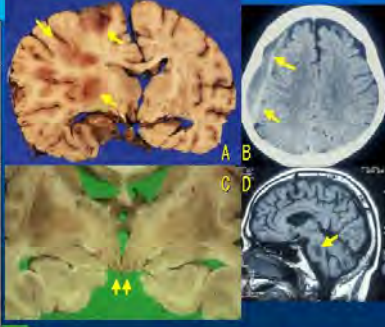
— 飲酒問題の重症度に応じた教育・介入用教材 —



## アルコールと健康被害 — 予防のための基礎知識 —

### アルコールによる健康被害

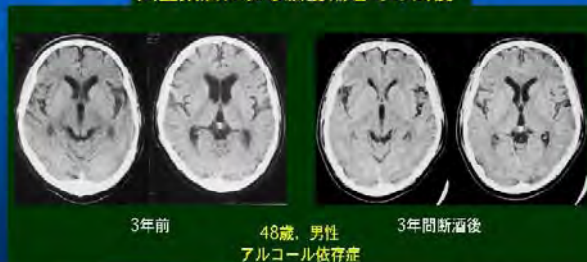
- 大量飲酒によるその他の脳障害
- 酔い時の転落、転倒等による頭部外傷も多く、大量飲酒者の18%に何らかの外傷性病変を脳に認めている。(A:脳挫傷、B:慢性硬膜下血腫)
- また、大量飲酒者には低栄養、ビタミン欠乏、電解質異常による特有の脳障害も見られる。(C:ウェルニッケ脳症、D:橋中心性脳組織解症)



Dr. Eishi & Shun-ichi  
Hizen National Hospital

### アルコールによる健康被害

#### 大量飲酒による脳萎縮とその回復



3年前 48歳、男性 3年間断酒後  
アルコール依存症

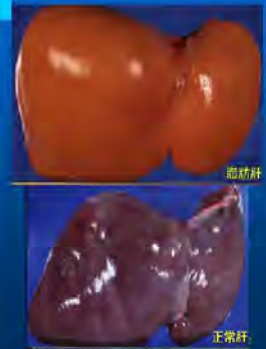
Dr. Eishi & Shun-ichi  
Hizen National Hospital

## アルコールと健康被害 — 予防のための基礎知識 —

### アルコールによる健康被害

#### アルコールによる肝臓障害

- アルコールあるいはその代謝産物が肝臓の細胞に毒性を持ち、肝機能障害を生ずる。
- 通常、正常肝→脂肪肝→アルコール性肝炎→肝硬変の順に進展する。
- 右上図は典型的な脂肪肝の肉眼写真で、下図は正常肝である。明らかな色調、大きさの違いを認める。



Dr. Eishi & Shun-ichi  
Hizen National Hospital

### アルコール依存症

- (症例) A氏 49歳 男性 元会社員
- (状況) 妻子と3人家族。3年前よりアルコール依存症の診断で2回の入院歴あり。7ヶ月前に退院した後3ヶ月は断酒できたが、その後再飲酒。仕事中の飲酒もみられ、失職。死亡前3日間は部屋に閉じこもり、食事も摂らず焼酎3合/日を飲酒。心配した妻が部屋を覗いたところ既に死亡していた。
- (解剖所見) 脂肪肝
- このようにアルコール依存症になると、突然死することがある。これを「大酒家突然死症候群」と呼ぶ。

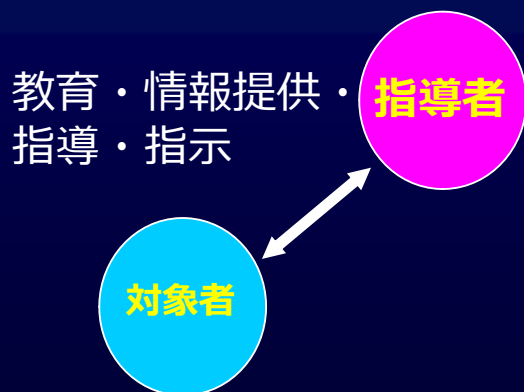


Dr. Eishi & Shun-ichi  
Hizen National Hospital

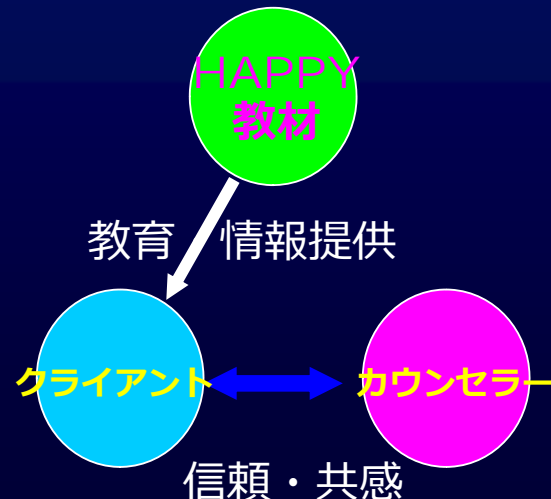


## 教材と介入者、被介入者の関係を示す構図

### 従来型の介入 = 指導



### HAPPYによる介入 = カウンセリング



59

Hizen Psychiatric Center



## HAPPYが特に有用と考えられる状況

- ① 介入を行う者のBrief Interventionとアルコール問題に関する知識と経験が浅い。
- ② 患者が未だ無関心期にある。
- ③ 患者のアルコール問題が重篤である。
- ④ 患者のアルコールによる健康障害への関心が高い。
- ⑤ 集団で飲酒運転防止対策教育を含めて行う。  
(= HAPPY福岡市方式)

60

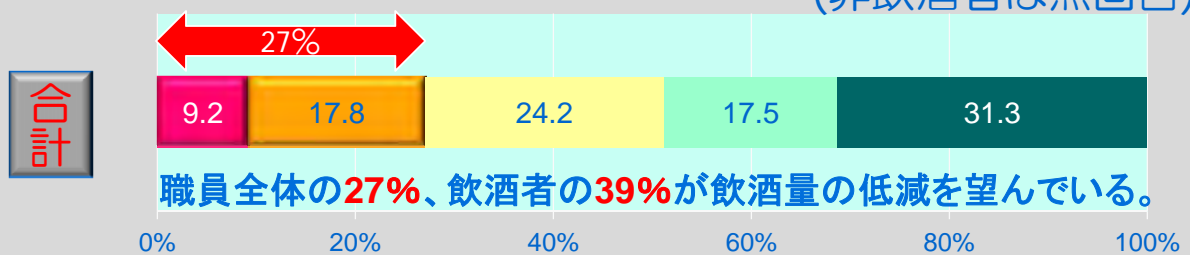
Hizen Psychiatric Center

# 福岡市役所における飲酒運転対策 —HAPPYプログラム福岡市方式—

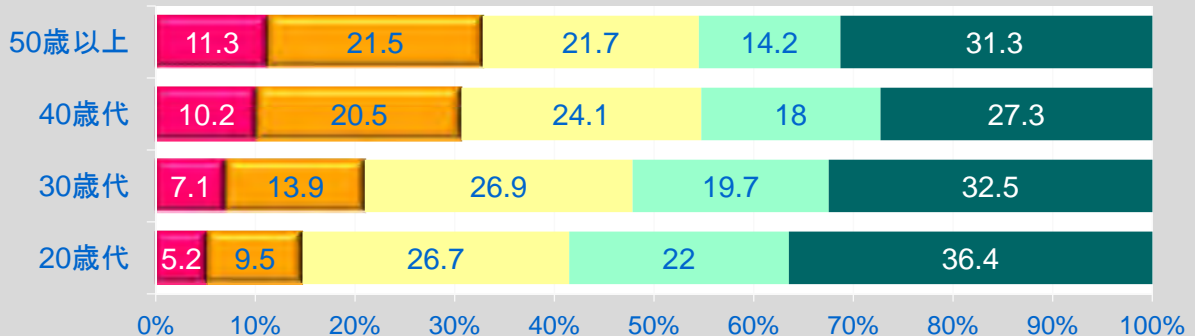
## あなたは自分の日頃の飲酒の量を減らしたいと思いますか？

対象：福岡市役所全職員9,408名（教員、外郭団体出向は除く）、  
回答数：7,008名（回答率74.5%）、有効サンプル数：6,110（有効回収率：64.9%）

(非飲酒者は無回答)

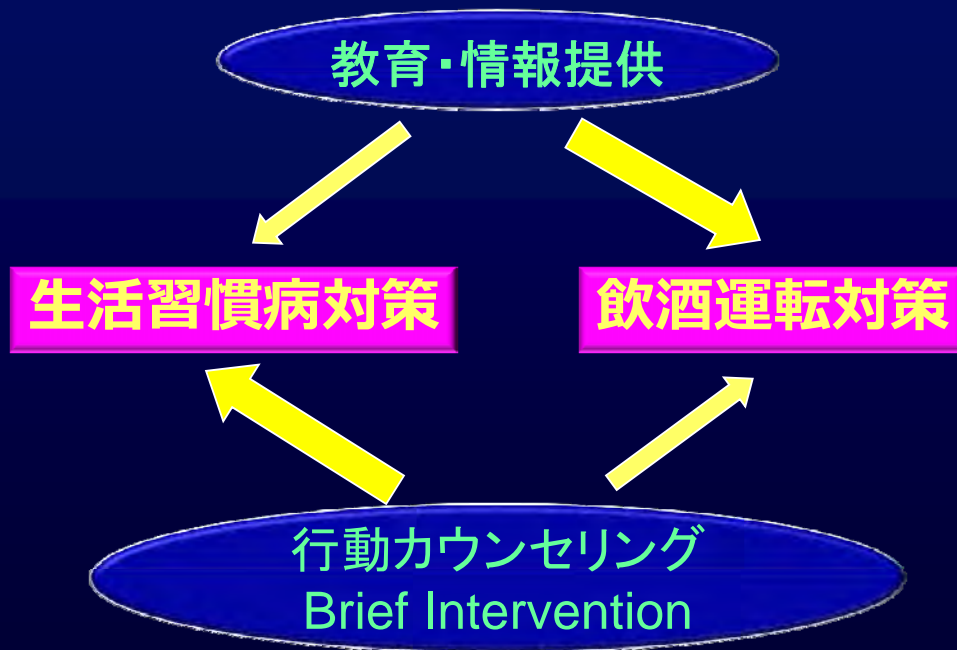


### 年代別の分析



■ そう思う ■ 少しそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

生活習慣病対策と飲酒運転対策のアプローチの違い



事業の概要

HAPPYプログラム（福岡方式）

ポスター掲示

参加者募集

男性：飲酒量210g/週以上  
女性：同 140g/週以上  
あるいは、  
6ドリンク以上の飲酒が1回/週以上

AUDITによる飲酒問題の客観的評価

+

生活習慣病に関するアンケート